

日本筆記具工業会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-3-14 東京文具工業健保会館1F

電話 03 (5829) 3848

FAX 03 (5829) 3852

発行:日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL http://www.jwima.org

新年のご挨拶

日本筆記具工業会 会長 西村 彦四郎



2024年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申 し上げます。会員各社の皆様におかれましては輝か しい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。ま た旧年中は筆記具業界の発展のため、皆様方に多大 なるご尽力をいただき、誠にありがとうございま す。 2023 年は野球日本代表が WBC で3大会ぶり に優勝したことをはじめ、ラグビーW 杯やサッカー 女子 W 杯などスポーツを中心に大いに盛り上がった 年でした。一方でロシアによるウクライナ侵攻が長 期化していることに加え、中東情勢も相まって、世 界的に不安定な状況が続いています。企業側への影 響といたしましては円安や、エネルギー資源、原材 料の高騰による値上げが業界問わず実施されており ますが、一方で輸出関係につきましては円安が追い 風となり好影響をもたらすなど二面的な要素が大き くなっています。国内の個人消費につきましては、 価格上昇の影響もあり消費が低迷している状況もあ りますが、高単価・高付加価値の商品やサービスへ

の需要が高まっていると思われます。節約しつつ、自身が欲しいもの、こだわりたいものへは思い切って投資するという個々のメリハリが非常にはっきりしてきており、筆記具においても高単価商品が大人だけでなく、中高生にも購入いただくことが増えてきています。2020年から続いていたコロナウィルスにつきましても、2023年5月に5類感染症に移行されました。それに伴い、人流の回復、及びインバウンド需要が高まっています。訪日される方々が増えるということは、日本製品に触れ、知っていただく機会が増えることと考えます。日本の筆記具業界は世界の中で圧倒的な技術力と企画力を持っています。日本に数ある産業の中でもこれだけ高い競争力を持っている業界というのは少ないのではないでしょうか。一方でマーケットを見てみますと世界の人口は1987年に50億人となりましたが、それから35年で80億人まで増えました。また昨今、経済力の面で世界における日本の地位が下がったと言われますが、それだけ豊かな国が増えたとも言えます。これらのことはマーケットに大きな潜在需要があるという事です。これからも画期的な商品を作り続けることにより、日本の筆記具業界が大きく成長していければと思っております。最後になりましたが、今年が文具業界関係各位ならびに会員各社にとりまして一層の飛躍する一年となりますことを心よりお祈り申し上げますと共に、本年も日本筆記具工業会に更なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、新春のご挨拶とさせて頂きます。

講演会・年末懇親会 盛大に開催(11/30)

日産社外取締役 元カーレーサー井原慶子氏のお話に驚嘆



本年が第21回となります年末の講演会・懇親会が2023年11月30日(木曜日)に上野精養軒で開催されました。お忙しい中、約60名の多くの方にお集まりいただき、楽しいひと時を過ごしました。第1部の講演会では、カーレーサーから日産の社外取締役に転身された井原慶子さんの「挑戦が未来を切り拓く」というテーマでのお話をお聞きしました。第2部の年末懇親会では、久しぶりの立食形式での開催でしたので、多数の方と懇親することができ皆さん喜んでおられました。

懇親会の冒頭、西村彦四郎会長より次の様なご挨拶がありました。

「筆記具業界は高い技術力とアイデア力があり、世界に対して日本がこれ ほど圧倒的に力を持っている業界はそれほどないのではないか。世界の人口 も私たちが会社に入った頃は 50 億人と言われていたが、今やなんと 80 億人である。しかも裕福になっている国が増えている。つまりこんなにマーケ

ットが広がっているわけであります。私たちの活躍の場はますます世界に広がっているので、今後も 十分高い目標をもってこの業界を成長させていきましょう!」と会員みなの士気を挙げ、万雷の拍手 を浴びていました。

続いて、経済産業省大滝義彦課長代理の来賓ご挨拶、小川晃弘副会長の発声で乾杯を行い、歓談に移りました。しばし歓談を楽しんだ後、全文協会長に就任した石川真一副会長の挨拶と高橋智和副会長の閉会の挨拶で懇親会を終了いたしました。

<井原慶子氏講演内容>

井原慶子です。私は1973年生まれなのでちょうど今年50才です。普通のサラリーマン家庭に育ちましたので、大学に入った後は自立するために大学1年の夏からモデル事務所に所属してモデルやキャンペーンガールのアルバイトをしておりました。他のバイトよりかなり割が良かったのです。でも、ただ所属してるだけではお金にならないのでいろいろなオーディションを受けて回りました。最初はどれもすぐ落ちてしまいました。落ちたもの同士、帰りがけにカフェで愚痴を言い合っていましたが、そのうち皆で合格した人が



なぜ合格したのかを分析することにしました。その結果、顔やスタイルだけではなく、そのオーディションではどのような人が求められるかを考えて、しぐさやしゃべり方、笑顔を作る時の口角のあげる角度、自分を最高にかわいく見せる角度など十分に研究、準備していくことが大変大事であることがわかりました。そこで私も十分に準備をすることによって、その後はほぼ最終選考まで、毎回通るようになりました。これでも、その頃は女優の米倉涼子さんや東大出の菊川怜さんとよくオーディション会場で張り合っていたんですよ。

モデルの仕事の一環としてある時、カーレースのレースクイーンの仕事をしました。最初はハイレグの水着とハイヒールを見て、私にできるかしらと戸惑いましたが、毒食わば皿までで、えいとばかりに挑戦しました。ここだけの話、私はこれでもレースクイーン1番の名誉である「ミス・ベネトン」に選ばれたこともあるんですよ。パラソルを差して笑っているだけの仕事でしたが、その脇では、鋭い視線のレーサーと必死にネジを回すメカニックがいました。私は毎回彼らの仕事ぶりをみて、私も人生で頭と体の能力を全部使って必死に限界に挑む仕事がしたいなあと思いました。そして私もカーレーサーになりたい、絶対になると思ったのでした。

私は昔から怠け者だったので、あえて自分をそういう厳しくて頑張らざるを得ない状況(自分より高いレベル)に飛び込んでいくようにしていました。そうしないと何もしないからです。恥ずかしさや緊張をばねに自分の限界を広げていこうと常に考えていました。今考えるとそういう性格はレーサーに向いていたと思います。

でも、カーレーサーになりたいと思った時に、私は何と運転免許は持っていませんでした。私はすぐ翌日に教習所に行きました。最初はアクセルもブレーキも分かりませんでしたので、知ってて当然と思っている教官との喧嘩から始まりました。無事免許を取った後、カーレーサーになるにはどうしたらいいかを、ちょうど車のモデルの仕事があったので車雑誌の専門家に聞いてみました。そうすると、日産が今度セーフティドライビングスクールを作るのでそこのインストラクターを募集している。その採用試験をやるから受けてみればと言われました。まだあまり運転したことが無いんですけど、と言ったところ、何でも挑戦だよと言われました。私はその試験を受けることにしました。試験はドリフトで8の字に旋回する試験など難しいもので、私は一つ一つ試験官からやり方を教えてもらいながらやってみました。車が何度もスピンしてしまい、そのたびに謝っていました。でも、なんと、私は合格したのです。間違ってしまった時しっかり謝ったことと、まだ素人だったので運転が素直だったからという理由でした。アルバイトのモデルの時の体験が生きたようです。

インストラクターになった後は、毎日仕事が終わった後に、そのコースで何時間も車を運転していました(今では許されないですよね)。いろんな車を運転して、わからないところはそこのエンジニアにとことん聞きました。そうするとエンジニアもわかりやすく細かいところまで教えてくれました。あのカーレースのサーキットのエンジニアと同じだなあと思いました。この時の、エンジンの仕組みやサスペンションなど車の成り立ちを理論的に詳しく教わったことが、その後カーレーサーになった時どんなに役に立ったかわかりません。

私はカーレーサーになる夢をかなえるべく、まずお金を貯めました。親は1円も出してくれませんので、いろんな仕事を掛け持ちして、5年で1千万円を貯めました。カーレーサーになるには、つまり人のお金でレースカーに乗れるようになるには、まず自分のお金で車を買って、レースに出て、実績を作らなければならないのです。

1999年、35歳の時、ぼこぼこのフェラーリ(事故車)を750万円で買いました。そしてそれを自分のお金で直して、初めてレースに出ました。フェラーリだけが走るレースです。壊したら修理代は自分持ちだし(しかもフェラーリなので高い)、残りの250万円が尽きたら挑戦をやめなければなりません。ですから、最初のレースでいい成績、いや目立った活躍をしないと、どこからも声がかからず、後が続きません。

レースが始まりました。最初のほうはほんとに怖かったですが、周りが行け行けーと言いますので、やけのやんばち後半は思い切ってアクセルをふかしてどんどん抜いてやりました。そしてなんと最初のレースで3位に入賞することができました。「キャンギャルレーサー井原慶子、いきなり3位!」とスポーツ新聞各紙にも取り上げられました。セーフティドライビングスクールで優秀なエンジニアの指導の下、毎日4時間走っていた成果です。その後、イギリスのレーシングスクールに半年留学して腕を磨き、なんとその年のフェラーリシリーズ最終戦で優勝することもできました。

その結果、世界のフェラーリレースの上位者を集めたイタリアの「フェラーリチャレンジワールドファイナルレース」に招待されました。自分のフェラーリをもって行ったレースは、まわり中からぶつけられて車がぼこぼこになるのもかまわず必死に運転し、120台中8位に入賞しました。そのおかげで、古城で行われた表彰式に招待されました。そこでなんと、あのシューマッハに会ったのです。この時とばかりに、私はなかなか優勝できないがどうしたら優勝できるのか聞いてみました。最初「君は三流の顔をしてるからいつまでも君は三流だ」と言われましたが、あとからアドバイスをくれました。監督や車やコースや仲間の愚痴を言ってるうちは三流だ、どんな環境にも順応して、どんな環境も自分のものにして、言葉と時間を共有して最高の結果にもっていくように自分で回りを引っ張っていかなければならない、変えていかなければならない。そうしないといつまでも一流にはなれないと言われ、目からうろこが落ちた気がしました。それは短期留学をしたイギリスのレーシングスクールの20才そこそこの世界各国の少年たちが、すべてはプロレーサーになるために、激しいトレーニングに堪えるだけでなく、嫌なコーチ、苦手なメカニックとも楽しそうに技術的会話をしてる姿が思いだされたからです。

イタリアでのフェラーリチャレンジは8位にはなれましたが、悔しい点もたくさんあり、もっとやってやるぞ、やりたい、私はできるという意欲がわきました。

レース2年目。幸いに、そうやって目立ったおかげでスポンサーも付きイギリスのレースチームに入ることができました。フォーミュラ・ルノー・ブリティッシュシリーズ。しかし非常に田舎にある小さなチームで私よりずっと若い少年と一緒に技術を磨く日々でした。またその頃ソニーのノートPCが流行っていたので同じチームの若いレーサー仲間に、「アジアのリーダーであるインドや中国も、日本の技術にはかなわない」と言われビックリしました。私はずっとアジアのリーダーは日本だ

と思っていたからです。このような外国体験は現在非常に役立っています。常に過去の経験が次のステージで役に立つというのが私の人生のようです。

レーサー3年目。次に行ったのはフランスのチームでF3シリーズを戦いました。そこは田舎なので、日本人があまりおらず肉屋の店主に窓に生卵を毎日ぶつけられるようないじめにもあいました。日本は有事の時に、お金しか出さないから嫌いだというのが理由らしかったです。しかし根気よく話に行ったり、なけなしのお金でお肉を買い、その料理法を聞いたりしてやっと打ち解けることができました。フランスでのトレーニングとレースは非常にきついものでした。でもそのおかげでかなり体力とレース能力が向上しました。レース参戦30人の中で女子は私1名でした。私もはじめて入賞することができました。まわりが皆大喜びしてくれた情景を忘れることができません。しかし、9.11でスポンサーの支援が得られなくなったので泣く泣く帰国しました。

日本ではある程度有名にはなっていましたが、なかなかスポンサーが見つかりません。やっと見つかって、アジアで戦うこととなりました。その結果国際フォーミュラーカーレースで世界初の女性レーサーとしての優勝をしたり、あこがれのマカオグランプリで表彰台にあがったりしました。

2004年。レースを始めて5年目。とうとう国際的なイギリスF3シリーズに参戦しました。ヨーロッパ各国を転戦します。ここでも女性は私1人。のちにF-1王者となるルイスハミルトンなF-1-歩手前のレーサーたちと毎回戦っていました(この時の仲間から7名もF-1レーサーになりました)。私は入賞を7回することができました。

翌年、国際イギリスF3の2シーズン目。何度か入賞できました。日本に帰国している時、講演会がもとで知り合って付き合うようになった恋人が、はるばる応援に来てくれた目の前でかなり激しいクラッシュも経験しました。車は滅茶苦茶、でも鍛えていたので体は何ともなかったです。

まわりからF-1に行く同僚も多くF-1が身近になってきました。私もF-1で走りたいという希望も出てきましたが、何年も男性と張り合ってきた結果、私の体はボロボロ、メンタルの病気になってしまいました。とりあえずここで帰国することにしました。

女性としてアジアから一人参加して、レース界において女性の地位をかなり上げたので、10年間ずっと見てくれたイギリス人マネージャーに「君一人の世代で最高峰までは無理だよ。歴史はそんなに早く動かない。パイオニアとして君のやるべきことはここまでで十分だよ。よくやったよ。欲を出しすぎると命を落とすぞ」と言ってもらえました。

あとは次の世代に任せることにして、心を癒しながら日本では子供に英語を教えました。子供には無限の可能性があります。毎日が楽しかったので数年で疲れていた気持ちも癒えていきました。

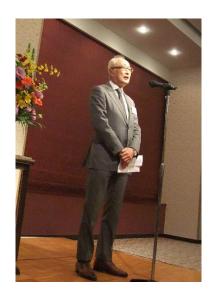
そうこうしているとき、2012年。なんとまた、レースの戻らないかというお話があり、私の心にまた火がつきました。もうこうなったら止められません。私はレースに戻ることにしました。しかしその時はもう普通の人に戻っていたので、大変でした。落ちた筋肉や持久力などの体力を1から作りなおしました。レーサーライセンスを返納していたので、また取り直しました。

参戦したルマンシリーズは、3人1チームで2時間走ったら4時間休む繰り返し。50チームあるので全員で150名、女子は私1人だけです。ここでも、けがをしないことや回復を早くすること、感情をコントロールすることなど男性にできない部分で頑張っていい成績を残すことができました。他にも多くのレースに出場して、いい成績を残すことができました。レース以外にもいろいろなお仕事のお誘いを、大学や行政からも、いただき何でも挑戦してみよう精神でやっておりました。

2018年、そのような私なりの活躍を見てくださっていた日産自動車から声がかかり、社外取締役に就任しました。月に1度くらいの出社でいいと思って引き受けましたが、それからすぐゴーン社長が捕まってしまいました。社内は大混乱で、内部にあまり関係していなかった社外取締役が中心となって、社内のガバナンスの見直しをすることになりました。大変な役目が突然回ってきました。日産は世界に3,000人の弁護士を雇っていて、毎日その報告書に目を通さねばなりません。毎日目が回るような忙しさになりました。時給で言うと100円くらいなものです。ただ、この忙しさはレースやトレーニングで経験していますし、体力には自信があり、語学も身についていたので何とか切り抜けることができました。

日産という会社は、事件前の何十年も前からいろんな社員を採用してきました。ダイバーシティを 実践していた先駆けです。いろんな人がいると摩擦が起こります。それを受け入れる苦労も大変です が、その摩擦に皆が慣れてきます。その中でぜんぜん違う意見がでてきます。そこから様々な機能や 様々なサービスの発想が生まれてきます。自動車産業は一つの大きなプラットフォームです。今後も ここを中心に、世界中の様々な社員とともに、技術革新や環境問題を解決していかねばならないと思 っています。本日はご清聴ありがとうございました。

(次ページの写真は、その後行われた年末懇親会の様子)





会員研修会 話題のテーマに納得(11/14)

生産現場のDXと事務部門のチャット GPT の活用法



本工業会では、会員の皆様への情報提供の一環として、毎年各分野のスペシャリストに講師をお願いし、研修会を開催いたしております。本年は、2023年11月14日(火曜)ベルモントホテル(浅草橋)に、進化の著しいIT分野と実際の仕事の現場両方に精通したスペシャリストをお招きし開催しました。最新の情報に接して、明日から実際にワークプレイスに未来的なレボルーションを起こせるプラクティカルな研修が目標です。

最初に開催者である工業会総務委員長の杉 浦正氏により「テーマが今風で仕事にすぐ応

用できるので 今回は40名 以上の皆様に

ご参加いただきました。やろうと思ってもなかなかできないので、是非これを機会に身近な IT 化に取り組んでください」という挨拶がありました。その後みっちり3時間に及んだ研修でさぞや出席者は人より1歩先行くスキルを身につけて、公私ともにクオリティアップを実現して、職場に戻っていったことでしょう

<開催概要>

講師:中小企業診断士 株式会社スプラム 代表取締役 竹内幸次氏

第1部 13:30~15:00

製造業の DX 推進/デジタル活用で生産性を向上させる方法

第2部 15:20~16:50

チャット GPT/事務部門・本社部門での実際の活用法

交流懇親会 17:00~18:30 立食 30名

<講義内容>

(第1部)企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、組織、プロセス、企業文



化・風土を変革し、競争上の優位を確立しなければならない。先端的な企業の例や、実際の業務にすぐ取り入れられる技術やサービスを活用してほしい。また、デジタル化による業務効率化や生産性の口上だけでなく、経営者はこの際、何のために会社があるのか、その理念、存在意義、つまり「パーパス」をしっかり持とう。5~10年後にどんな会社でありたいか、理想と現実の差分は何か、どう解消するか、なども考えることが大事である。〈キーワード:VUCA、startcounter、Googleトレンド、SimilarWeb、jSTATMAP、ラクスル、シュフー、icoon-mono、autodraw、photo-ac、bit.ly、6W2H、HP内ブログ、HP外ブログ、statcounter、リモートアクセス、グーグルクロームストップ、zoom自動議事録、自動補助金申請〉

(第2部)チャットGPT等のAIをどう活用すれば仕事に生かせるか教えよう。使用する際の限界や、注意点も具体的にも含めてである。途中覚えておくと便利なHPも紹介してあげよう。生成AIが持っている情報は学習時点のものなので、新しいことには正しく回答できない。また個人情報流出や二セ情報の拡散、著作権侵害などの懸念されるスクがある高知尾も忘れないでほしい。<キーワード:マイクロソフト365、ChatGPT、BingAI、GoogleBard、AI事務員>

懇親ゴルフコンペ4年ぶりに開催(10/26)

名門「我孫子ゴルフ倶楽部」の難コースに皆苦戦

本工業会では年間行事の一環として会員間の交流を図るため毎年ゴルフ親睦会(岡本信一会長)が懇親 ゴルフコンペを開催しております。コロナにより間が空きましたが本年は2023年10月26日(木 曜日)に4年ぶりに開催いたしました。、会場は久しぶりに名門我孫子ゴルフ倶楽部をお借りし、5組



18 人ダブルペリアで回りました。当日はまたとない晴天に恵まれ、大変楽しくプレイを楽しませていただき、おおいに交流を深めさせた頂きました。しかし、コースは非常に難しく、どのコースもグリーンはいくつものバンカーに囲まれ、しかも顎がえぐれており、やっと脱出できたかと思ったらグリーンの傾斜によってボールはグリーンの外にまで転がり出てしまいます。通常80 くらいで回る人が今回は114もたたいてしまったほどです。その中で見事なスコアで優勝したのは㈱

マービーの河西啓明社長です。スコアはネット 73.8、グロス 93 の見事なものでした。ゴルフ親睦会

の会長の岡本信一会長から賞金と我孫子ゴルフ倶楽 部グッズセットの副賞を授与されました。 次回はぜひ皆様もご参加ください。



対 面 会 議 増 え る

効率的な「WEB 会議」「書面審議」も今後も大いに利用

やっとコロナが終息しましたので、工業会の会議も対面を取り入れるものが増えてきました。その一つをご紹介しましょう。下記は11月24日(金曜)に行われた第3回製品安全小委員会の模様です。 コロナ中はほぼWEB会議で行っていましたが、久しぶりに対面でもWEB参加でもいいハイブリッド方式で行いました。対面出席12名、WEB出席12名。塩井恵子委員長の元2時間にわたりEWIMA(欧州筆記具工業会)情報の報告や各社の近況発表など有意義な会議が行われました(下左)。また最近は学生の業界研究の取材が多く会員企業の詳しい方をお招きして親切に対応しております(下右)。





2023年 第22回通常総会が開催されました

(2023年5月24日(水曜) 上野精養軒にて)

2023年5月24日に行われた第22回通常総会の模様です。数原英一郎会長が退任され、西村彦四郎会長が選任されました。懇親会は、すでに新型コロナは終息しておりましたが、以前より事務局がコロナを見据えて準備していた関係で、着席形式のまま行わせていただきました。









2024年 第23回通常総会の日程が決定

(2024年6月6日(木曜) 上野精養軒にて)

第23回通常総会は2024年6月6日(木曜)の17時から上野精養軒で行われることが決定しました、コロナが明けてから2年目の本格的な1年を迎えますので、充実した活動を行いたいと考えております。皆さま奮ってご参加のほどよろしくお願いいたします

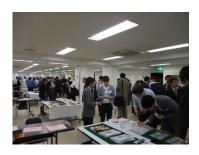
JWIMA技術交流会2024

2024年6月19日(水曜) 浅草橋共和会館にて開催予定

本年はオリンピックイヤーでもありますので、恒例の「JWIMA 技術交流会2024」を6月 19日(水曜)の午後に浅草橋共和会館で行いたいと思います。前回の2020年は新型コロナの為に中止となりましたので、2016年以来8年ぶりの開催となります。この会は、主に会員である部品メーカーが完成品メーカーをはじめとする他の会員企業に自社製品をご紹介し、工業会全体の交流を図るとともに、工業会全体の技術的スキルアップを期待するものです。

後日ご出展企業(主として2020年エントリー各社。随時募集中)とお打ち合わせを持ちますので、当日ご参加希望の皆様は期待してお待ちください。下記は前回2016年開催の様子。







<編集後記に代えて:カーレーサーの蘊蓄>

- ・(ブレーキ)ストレートを時速350kmで走っていてコーナーに差し掛かった時ブレーキをかけるわけですが床に置いたスティール感を踏み潰すようにガンッと思いっきり強く踏みます。O. OO1秒でも狂うとコースアウトしてクラッシュしてしまいます。何も考えないと毎回寸分の狂いもない同じタイミングでブレーキをかけてしまいます。それは人間の身を守る本能だと思います。しかし勝つためにはあえてそのブレーキングを遅らせるわけです。
- ・(チューニング) 車のチューニングは凄くてダウンフォースを適正に作ることによってブレーキによる制動距離は30メートルも違ってきます。コースの特性や天候、ライバルチームの予選タイム。それらすべてを勘案して車のセッティングをします。
- ・(ミス防止)車の各種の設定を変更するボタンはハンドル近くにありますが、ベンツはハンドルを握ったまま目をつぶっても押せる位置についてますが、フェラーリはしっかり見て考えてから押さないと押し間違えるようなボタンの配列になっています。まるで逆ですがどちらもミスの防止のためです。
- •(食事) 男に負けない体を作ろうとレース練習の間のランチで肉やチーズや野菜をたくさん食べていたら怒られました。午後の練習で眠くなるだろと言われました。ヨーロッパの若い男性レーサーは試合前にはただのスパゲティを、塩をふったくらいで食べます。が、20分くらいで消化してしまうのでパフォーマンスが落ちます。私は腹持ちするお赤飯などを食べているので、彼らが集中力散漫になった後、後ろから抜き返すことができます。
- •(メンタル)メンタルは訓練すると呼吸や匂いや血流でコントロールすることができるようになります。音楽や運動で自分の力以上がだせる「ゾーン」に入って集中したり、エネンルギーを温存したりする訓練も積み重ねます。これも男性に体力では劣るので、それを補うためです。そうすると、変な追い抜きに対してもカッとならないように感情もコントロールして相手を冷静に観察できます。心も体もエネルギーもマシンもコントロール可能です。
- ・(トレーニング) 高速でカーブを曲がると約300 kg、重力5Gが横からかかります。力士2人で押されている感じ。それに狭い寝そべった車内で耐えて車をコントロールしなければなりません。50 kg もあるクラッチを何千回も踏んだり、時速200~300 キロで1日350キロ(東京から名古屋までくらい)運転したり、クラッシュした時に首の骨が折れないように体幹も鍛えなければなりません。カーレースはスポーツの中で1番過酷なスポーツです。ですから、トレーニングもスポーツ界1厳しいものです。レーサーのトレーニングは朝起きてランニング20キロ、そのあと自転車で100キロ、腹筋500回。クールダウンを兼ねて50mプール30往復などまだまだ終わりません。一緒にやっていた野球の清原さんなどの男性は足のウェイトトレーニングで500キロくらいあげますが、女子の私は270キロくらいでした。体力では勝てないから、回復力やコミュニケーション力や、問題解決力で男に勝ってきたわけです。
- (お金) カーレースで 2 台のマシンを走らせるには、年間 400 億円かかります。1 台 200 億円です。世界に1 年で20 億円稼ぐメカニックは100 人しかいないそうです。車を仕上げるため1 日試験走行をしますが、かかる費用は小さいチームで数百万円、大きなチームだと数千万円にもなります。
- ・(フランス) カーレースは 1880 年、フランスで始まりました。蒸気機関の車からガソリン車に変わるタイミングでありました。優勝は 1 位の蒸気機関の車ではなくて、これから力を入れていくべきガソリンで挑戦した 2 位の車に贈られたそうです。速いことより未来の可能性に賭けた人をたたえるフランス人らしい判断です。フランス人はルマンやツールドフランスなど伝統を重んじて100 年以上長く開催したり、距離も 1,000 キロレースとか時間も 24 時間とかにしたり、なにしろ長いのが好きです。 (終)